コミュニケーション

2004・JAN 1

No.64

OMORIYAMA ZOO NEWS

ニホンザル

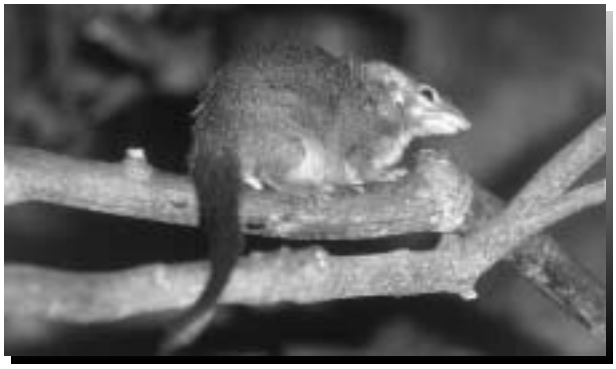
画：佐藤一男

秋田市大森山動物園
Akita Omoriyama Zoo

さる年考

飽くなき挑戦者

大森山動物園長
小　松　　守



▲原始的霊長類？ツパイ（現在はツパイ目に分類）

私たちの先祖であるサルたちは6～7,000万年以上もの大昔、原始的な食虫類の仲間から進化したと言われている。

原始食虫類はすべての哺乳動物の始まりであるともされているが、当時の彼らは茂みの中で日中は恐竜から身を隠し、夜に歩き回って虫を捕まえて暮らしていた。現存するトガリネズミなどの食虫類は昔の姿と大差ないようだ。

皆が地面でしのぎを削って虫集めに奔走している中、一部変わり者が（どこにでもいるが…）大いなる勇気をもって地面を後にし、画期的にも樹上という空間に果敢に挑んだのである。地上の活動に慣れていた原始的な食虫類にとって、樹上という生活空間は決して居心地のいい場所ではなかったであろう。

しかし、彼らは樹上での生活を確固たるものにしようと飽くなき挑戦をし続けた。木の枝を握れるように手指に器用さを身につけ、また、何度も何度も枝から枝へ跳び移れるように練習もしたであろう。その結果、挑戦者たちの手指は親指と他の四指が向き合うようになり、また両目は顔の正面に付き両眼視が可能となるなど体つきはしだいに樹上生活へ適応し始め、地上で生活するこれまでの仲間とは明らかに違った能力も身につけるようになった。

新天地に挑んだものたちへ神様（自然）はご褒美として、地上とは違い敵の少ない安全な生活空間と大好物の餌をたくさん用意してくれた。好物の虫を探すことで、付録として甘い果実も発見することもできた。新天地の樹上生活は苦労した挑戦者だけに与えられた楽園であった。この挑戦者がまさに私たちの人類のご先祖さんであった。豊かな暮らしは挑戦者たちへ旺盛な探求心もかき立てた。

ところで、地上に残った原始的な食虫類だって、生き抜くために決して何の努力も払わなかった訳ではなかった。植物を好きになった仲間たちはしだいに体を大型化させ同時に蹄も備え、ついにはウマやキリンあるいはゾウの如き巨漢へと進化した。肉食を選んだ仲間はライオンやトラなどのしなやかな体と強力な牙や強い腕っ節を持った究極のハンターへと変貌を遂げた。あるいは水にすむクジラなどは魚のような姿になった。どれもこれも哺乳動物の多様な適応を教えてくれる特徴的な姿形である。しかし、彼らが行き着いたところは進化の袋小路であり、後戻りできない特異な容姿でもあった。

それでは樹上へと進出した飽くなき挑戦者たちの容姿はどうであったのか。地上で特徴的な生活を選択した多くの動物たちと比較して、その姿は意外なほど食虫類が持つ元の容姿をそれほど損なうことなく生き続けてきたのであった。

挑戦者たちが獲得したのびのびした豊かな樹上空間は、先祖の原型を無理に変える必要はなかった。体の各機能をバランスよく関連させながら発達させ、それは高い知能の発達へと繋り、高い知能はサルの豊かな個性へと発展し、その集まりである群は他動物に類を見ない複雑な社会へと変貌を遂げた。挑戦者たちをのみ込んだ渦はサルの進化と共に勢いを増すようになり、それはあたかも加速度的に変化する私たち人間の生活環境、社会環境にも似ているような気がする。

ところで、飽くなき挑戦者たちが袋小路に入らず、頑なに基本的スタイルを守り続けてきたことは、結果的に今の私たち人への進化に結びついたわけであるが、このことは人間という極めて頭でっかちで特異な動物を創り上げてしまったというパラドックス的展開をも生み出したのである。嗚呼、挑戦者たちは何処へと向かうのであろうか。

▲サル山のニホンザル

HOT INFORMATION

ほっといんふぉめーしょん

キリンの搬入・搬出

昨年11月に盛岡市動物公園から到着した『リリカ』は、とても落ち着いた個体です。当園に着いた時から、(盛岡を出る時から)輸送箱や室内外への移動が大変スムーズです。それに比べ、東京都多摩動物公園に搬出した『ルル』は、頑として輸送箱に入らず、２日がかりで“やっと”箱に入りました。若い２頭とも、いずれ多くの子供を産んで、そしてできるだけ長生きして欲しいものです。

▲ジュンと同居したリリカ

ただいま越冬中

ペリカンなどの水鳥がいるフライング・ケージは、毎年越冬のため、鳥を捕獲して越冬小屋に入れています。今回の作業は、今までにない大がかりな仕掛けの成果で短時間で終了したのですが、無事ではなかったヒトが一名。水辺でバランスを崩し、ずぶ濡れになった担当者でした！！

▲越冬中の水鳥たち

ニホンザルの入れ墨

毎年暮れにその年生まれの個体を捕獲し、識別のための入れ墨と性別チェックをしています。入れ墨といっても桜吹雪や昇り竜の類ではありません。顔には位置で数字がわかる黒点、内股には数字を入れて、識別しやすくするものです。

▲入れ墨でマーキング

イヌワシ搬出

昨年春に生まれた「空」が、12月19日盛岡市動物公園にお嫁に行きました。絶滅が心配なイヌワシの新しい繁殖基地をつくることを目的とした移動です。

▲イヌワシ「空」

行事の結果と案内

10/4 開園30周年＆『王者の森』完成記念式典

晴れ上がった秋空の下、開園30周年と新猛獣舎「王者の森」完成を祝い、合同の記念式典を開催しました。

▲王者の森は大盛況

10/4 青空シンポジウム

開園30周年記念式典に合わせて開催した青空シンポジウムには、勝平、日新、浜田の各小学校の児童たちがパネリストとして登場し、「未来の大森山動物園」について熱く語ってくれました。

▲青空シンポジウム

11/24 さよなら感謝祭

前日までの荒天が嘘のような好天に恵まれ、開園最終日としては過去最高の5,610人の人出でにぎわいました。

▲早く撮って～！
感謝祭　干支の撮影会より

行事案内

●冬の観察会 …… ２月８日(日)

●開　園 …… ３月20日(土)

目次

表紙「ニホンザル」…… 1
干支の動物「申」…… 2
ホットインフォメーション…… 3
特集 大森山のサル…… 4～5
飼育レポート・動物病院から…… 6
飼育日誌・編集後記…… 7
かたばた通信…… 8

特集 大森山動物園サルたちのひとり言

大森山動物園では現在11種類のサルを飼育していますが、全世界には200種類もの多くのサルが生息し、それらはいくつかのグループに分類されています。ここに登場してもらう５種類はグループの代表的なもの（図１、図２参考）です。今年はサル年です。大森山のサルの代表に自己紹介をしてもらいながら話を聞いてみました。

原猿代表　エリマキキツネザル

ぼくはエリマキキツネザルのエリオといいます！顔がとんがってキツネみたいだけど、ふるーい原始的なサルという意味で原猿というんだって。仲間が今も住んでるのはアフリカ南部のマダガスカル島だけなんだけど、この島がアフリカから大昔移動して離れたからぼくたち原猿類が生き残ったんだって。

旧世界（アフリカ大陸）ザル代表　アビシニアコロブス

こんにちは、ぼくはニホンザルやマントヒヒなんかと同じ、オナガザル科の仲間です。どうですこの長いしっぽ立派でしょう！ところで、ぼくは「葉食いザル」と言ってふつうのサルと違い、葉っぱを主食としたので、胃袋や腸が大きいため体が大きいんだ。また、好きな葉を食べ歩き高い梢をヒョイヒョイ移動するため、手の親指が退化してしまったんだよ。

旧世界ザル日本代表　ニホンザル

オナガザルの仲間なんだけど、しっぽが短いんだ。ちょっと変でしょう。寒いところで生活するため、凍傷になりやすいしっぽをやめたのかも。そして尻だこがあるのも特徴なんだ。

ぼくたちのことを、あるサル学者はスノーモンキー(snow monkey)と言うみたい。世界中で雪の中で生活できるサルは、ヒトとぼくたちだけかも！

ところで、サル山には今45頭います。一年の中で冬はやっぱり一番つらい季節。吹雪やうんと寒い時には岩陰にかくれて、仲のいい家族が集まり”おしくらまんじゅう”をやって体を温めるんだよ。家族で助けあうのは人も同じかな？

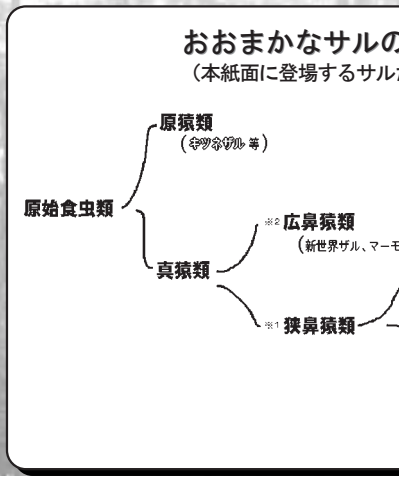
「春よ来い、早く来い」

類人猿代表　チンパンジー

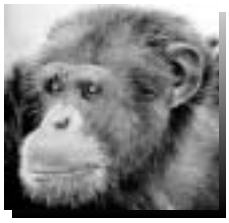
ある学者はぼくたちチンパンジーのことを「チンパン人」と表現しているようです。人様に大変近い高い知識をもち高度な社会生活をしているのです。個性も豊かで性格は人様並なんですヨ！それぞれの強い個性の一端をご紹介しましょう。

図１

図２



ボンタ・♂



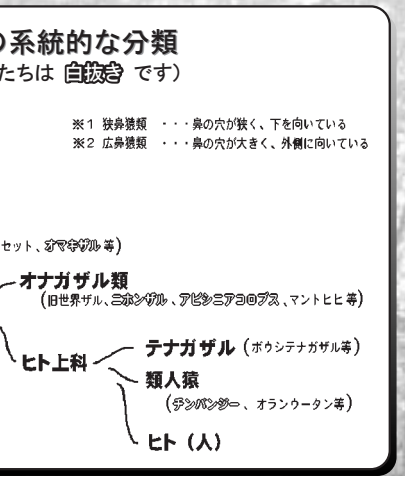
担当者曰く“普段は素直で言うことを聞いてくれるんだが、一度本気で怒るとガンコで”怒りが収まるのを待つしかない”と。でも俺、怒ってる時のコトはよく覚えていないんだ…。

ユミノスケ・♂

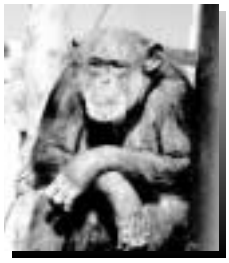
何に対しても無関心。人のいうことはほとんど聞いていません。反面、担当者に逆らう事もめったにありません。僕って変ですか？

ノリコ・♀

わたし、面倒くさがり屋で寝てる事が多いの。でも仲間のミユキがユミノスケにいじめられれば仲裁に入るのよ。ね、あたしって面倒見いいでしょ。



ジェーン・♀



私に担当者はかなり気を遣っている様子。気持ちの波が激しく、自分でも抑えきれずヒスを起こしたり、油断している担当者を見ると、思わずちょっかいを出したくなるのヨ！

ミユキ・♀

担当者は“つかみどころのない性格”と言うの。放飼場に出ると、仲間への挨拶もしないで食べ物に夢中になっちゃって、よくユミノスケにしかられちゃうの。

新世界（南米大陸）ザル代表　ノドジロオマキザル

ほかのサルはユーラシア、アフリカ大陸で進化し続けたんだけど、マーモセットやリスザルそしてわたしたちは、南米大陸がアフリカから分離して独自に進化したんですって！なぜか鼻の穴が外に向いているんです。ところで自分で言うのもなんですが、とても“賢く”南米のチンパンジーという人もいるんです。、手先もシッポも“器用”なのヨ。

私たちの群れは家族の結びつきがとても強いのヨ。人間ともコミュニケーションとっちゃうんだから。

大森山動物園のサル

No.	種名	分類	原産地	飼育舎	オス	メス	不明	計
1	コモンマーモセット	マーモセット科	ブラジル北東部	新世界サル舎	2	2	1	5
2	ワタボウシパンシェ	〃	中南米	〃	1	1		2
3	ボリビアリスザル	オマキザル科	〃	〃	1	7		8
4	ノドジロオマキザル	〃	中米	〃	2	2	3	7
5	エリマキキツネザル	キツネザル科	マダガスカル	サル舎	3	1		4
6	ワオキツネザル	〃	〃	〃	3	2	2	7
7	アビシニアコロブス	オマキザル科	アフリカ大陸中央部	〃	2			2
8	ダイアナモンキー	〃	西アフリカ	〃	1			1
9	マントヒヒ	〃	エチオピア～アラビア半島	〃	1	2		3
10	ニホンザル	〃	日本（本州以南）	サル山	22	23		45
11	チンパンジー	ショウジョウ科	西・中央アフリカ	チンパンジーの森	2	3		5
計					40	43	6	89

飼育レポート

秋田市大森山動物園での研修を終えて

国際動物専門学校飼育調教学科１年　　菊　地　香　有

今年動物専門学校入学後の動物園見学で、動物の飼育状況がとても悪く、ショックを受けました。子供の頃は深く考えませんでしたが、自分が動物について学ぶようになって、狭い檻で展示されている動物達が不憫に感じました。そこで「外から見た動物園」と「中の動物園」がどう違うのか確かめようと、幼い頃に行った大森山動物園での研修をお願いしました。

研修の最初は、ふれあい班を担当させて頂きました。羊・馬の削蹄やポニーの曳き馬の他、ふれあい広場で接客もしました。お客さんから質問を受けましたが、答えられない事もあり、自分の知識の無さを痛感させられました。草食動物班では、ゾウの調教で、ゾウはもちろん、担当の方の真剣な迫力に圧倒されました。乾草や汚物の運搬など、体力的には草食動物班が一番きつかったです。また、シマウマの交尾をしそうな現場なども見学出来ました。猛獣班では、ライオンやトラに生き餌の鶏をあげた時、弱肉強食を目の当たりにして少しショックでしたが、動物達の野生的な面を間近で見る事が出来てとてもわくわくしました。獣医班では、ビーバーの過長歯切除やウサギの去勢で助手をさせて頂き、とてもいい経験になりました。私は獣医班の研修が一番興味深くて楽しかったです。

▲飼育実習中の菊地さん

研修では、その場にいたからこそ経験できた事が心に残っています。しかし、毎日の作業の中では地味な掃除や給餌が、本当はとても大切だと感じました。毎日動物の表情や行動を、「いつもと違うところは無いか。」と一頭ずつチェックすることの重要さがわかりました。また、餌作りもとても細やかで、本当に動物のことを考えているんだと実感しました。

今回の研修は、私の動物園に対する思い、考えを変えられた機会だったと思っています。とても良い経験・勉強になると共に、動物を扱う仕事の厳しさを改めて感じました。自分の仕事としてやっていこうという自信はまだありませんが、動物について、自分について、これからよく考えていきたいと思っています。

ありがとうございました。

動物病院から

海外研修から学んだもの

飼育展示担当（獣医）　　三　浦　匡　哉

昨秋、秋田県市町村職員海外視察研修に参加し、オーストラリア・ニュージーランドを見るチャンスがありました。役所などの行政視察の他、ボランティア団体との意見交換等多岐に渡って学ぶことができました。

研修及び自由行動でオーストラリア・シドニー水族館とフェザデールワイルドライフパーク（以下、ＦＷＬ）、ニュージーランド・オークランド動物園（以下、ＡＺ）を見学したので、感じたままに記します。

オーストラリアでは当然ですが、我国では動物園でしか見られない動物（コクチョウやワライカワセミ等）が野生で普通に暮らしています。ＦＷＬは基本的にオーストラリアの動物だけを展示している施設です。カンガルーやワラビーなどがあちこちで放し飼いにされており、お客さんとふれあう場面を見ることができます。コアラもとても近い距離で見ることができ、体を撫でながら記念撮影ができるなど、日本では考えられない光景が印象的でした。ニュージーランドでも感じましたが、お客さんと動物との距離がとても近いのに驚きました。また、生態展示を多く取り入れ、動物たちが生き生きと生活しているのが伝わってきました。さらに、展示方法にも工夫を凝らして、何時間いても楽しめる動物園でした。

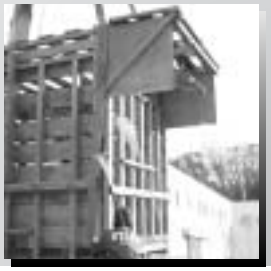
▲オークランド動物園の一コマ
お客様と動物を近づける工夫

滞在中、ＡＺには２回訪れました。余談ですが、前回のことを覚えていたスタッフが、忙しい中、わざわざ動物園の獣医さんを紹介してくれました。そして、彼は見知らぬアジア人を信用して動物病院を案内してくれたのです。この感動はとても言葉にはできません。元来哺乳類やヘビがいないニュージーランド、病院では外国から搬入したものを始め、動物の検疫をとても厳密に行っていました。また、ここは国鳥であるキウィの繁殖センターとしても重要な役割を担っています。

大森山動物園とこれらの動物園を単純に比較することはできませんが良い部分を吸収し、さらに応用発展できればと考えています。

飼育日誌より　03.９.１～03.12.20

９／１　☼　シロフクロウ：♀、病院から展示場へ移動。
９／２　☼　テン：親♂♀、日中同居。
９／５　☼/♣　トナカイ：テツ♂、死亡。
９／10　☂　コモンマーモセット：２頭出産。
1頭ずつ分かれて親にしがみついている。
９／11　♣/☼　シフゾウ：♂、点滴。
９／12　♣　シフゾウ：♂、抗生剤を打つ。
一日中口を開けていた。
キリン：♂、長期間ワラを敷いていたためか前蹄が上に伸びてきている。
９／13　☼　シフゾウ：♂、エサを食べずに16日間がんばったが死亡。
コモンマーモセット：９／10生まれの仔１頭、死亡。
９／16　☼　アシカ：スミコ♀、右前肢、手根関節付近に裂傷あり。
９／18　☼　カナダヤマアラシ：2頭、背中にノミ・ダニよけスプレー散布。
９／19　☂　ニホンリス：♂２、巣箱の中で死亡していた。
９／21　☼　ミーアキャット舎：朝、ほとんど動かなかったので床暖房ON。
９／24　♣　イヌワシ：空、羽毛による性別チェックのため捕獲。採血、体重測定。（BW4.0kg）
９／25　☂　ニホンツキノワグマ：阿仁クマ牧場よりペア搬入。
ワライカワセミ：黄、死亡（予備舎個体）。
９／28　☼　ワオキツネザル：ライチ♂、尻尾を怪我して入院。
９／30　☼/♣　ワオキツネザル：ライチ♂、退院。少し寒がっているのでオーブン展示。
イヌワシ：空、性別チェックの結果、♀と判明する。
10／１　♣/☂　ゾウ：午前、交尾確認。♂入室時、♀との闘争で上顎を牙で切る。
10／４　☼　開園30周年＆新猛獣舎「王者の森」完成記念式典。
ライオン：お食事拝見。ララ♀、採食せず。
カズ♂、ララの分まで採食。
10／５　☼/☂　ヤギ：ハル♀、死亡。
10／７　☼　サル舎：暖房を入れる（設定15度）
10／９　☼　ペンギン：ヒナの腹部に黒い斑点がはっきりでてきた。
10／11　☼　ペンギン：ヒナ１羽、夕方プールで泳いでいた。
もう１羽は確認できず。
10／14　☼　コモンマーモセット：出産、２頭。
10／15　☂/♣　ポニー：マーブル♀、削蹄。
コウノトリ：♂長男、ネットに引っかかり事故死。
10／17　☼　ヒツジ：４頭、削蹄と採血。
ホンドテン：テン吉♂、毛替わりし始める。
10／18　☼/♣　コモンマーモセット：仔（10／14生まれ）、床に落ちていたため病院へ収容。
10／19　♣/☼　コモンマーモセット：昨日入院した仔、死亡。
10／20　☼　シマウマ：親子同居。♂が♀にマウント。
夕方の納舎はスムーズ。
10／22　♣/☼　ワシミミズク：赤♂、猛禽舎予備室から入院棟へ移動。BW1.96kg。
グリーンイグアナ：闘争あり。♀が逃げ回っている様子。同居時とは逆転。
10／25　♣/☂　チンパンジー：室内展示場に穴をあけたひまわりの種入りブイをおいてみる。
10／26　☼　チンパンジー：ポンタとジェーン、ブイの中のひまわりをほとんど食べていた。
10／29　☂　ワシミミズク：赤♂、福岡市動植物園へ搬出。
10／31　☼　ビーバー：♀、門歯の切除。
11／１　☼　ワタボウシパンシェ：室内に毛が落ちているため観察。♀が♂を噛んでいたようだ。
11／４　☼　コウノトリ：♂次男、ネット側に倒れているのを発見。すでに死亡していた。
11／５　☼　マーモセット：仔、落下し骨折、入院。
11／６　♣／☼カピバラ：仔♂、室内プールで一時溺れる。泳げる個体で原因不明。事故防止に足場を設置。
11／７　☼／♣カンガルー：チビコ♀、朝寝室にて横臥状態。動作鈍い。BW23.5kg。
11／８　☂／♣カンガルー：チビコ♀、死亡。
11／10　☼　キリン：盛岡より♀（リリカ）搬入。
イヌワシ：「空」を両親と分け、予備室へ移動。
たつ子♀、信濃♂も採血および触診。
11／11　☂/♣　キリン：♀（ルル）搬出作業。輸送箱に収容できず、延期。
11／12　♣/☼　キリン：ルル♀搬出。多摩動物公園へ。
11／13　☼　ハイイロペリカン：下嘴に裂傷があるため、午後から捕獲し治療する。
キリン：リリカ♀、ジュン♂と見合い、特に問題ないが、扉の開閉音に驚く。
イヌワシ　孵化しなかった１卵を検卵、初期中止卵であった。
11／17　♣/霙　ペンギン：今年生まれのヒナ、（右青、右赤）♀と判明。
11／21　☂　ヤマネコ：2003.4.1生の子体重測定、A2,710ｇ、B2,160ｇ、C1,960ｇ
11／22　♣/☃　ダイアナモンキー：♂、朝、死亡していた。
11／24　☼　さよなら感謝祭
なかよしタイム：一般1,038名参加。
11／25　☂　キバタン：越冬のため病院へ移動(いずれオオハシ舎へ)。
11／26　☼　クジャク：ふれあい広場で飼育していたヒナ、クジャク舎へ移動。
11／27　☼　ウシ：ジャージー、矢島町へ返却。
シュバシコウ：♂（01.5.29生）隣室個体（03.5.3生）に背中等啄傷。
11／29　♣/☂　シュバシコウ：♂（11／27怪我個体）死亡。
11／30　♣/☂　トナカイ：成♀（ナツコ）、左落角。
コウノトリ：♀、越冬舎へ移動。
12／1　♣　ビーバー：展示場のガラス、破損。コンパネで補修。
ツル舎：越冬のためアネハヅル等移動。
12／2　☼/☂　Ｆケージ：鳥類捕獲し越冬舎へ移動。
12／4　♣/☃　ツキノワグマ：冬ごもり準備の為エサ増量。
サル山：捕獲、入れ墨作業。
12／5　♣　ウシ：ホルスタイン、沢田牧場へ返却。
12／6　☂　シュバシコウ：３羽、越冬のためＦケージの越冬舎へ移動。
12／7　♣　ツキノワグマ：♂、丸くなって寝ている。
12／8　☃　ホンドテン：♀親、夕方、死亡していた。午前中の生存は確認。飼育期間16年。
12／10　♣　イヌワシ：ペアの巣台に基礎巣材を直接投入。
（松、ススキ、杉、ネズミモチ、笹、ブナ）
12／11　♣/☼　ツキノワクマ：試験的にワラを４束入れる。♂はすぐワラをいじりだしたが♀は無関心。
12／13　☂　クマタカ：穂高、治療のため予備舎へ移動する。
12／16　♣/☂　イヌワシ：信濃、脚帯の状況確認のため捕獲。不要と判断し除去。BW3,000ｇ（+50ｇ）
ゾウ：11：40交尾確認。
12／17　☼　ペンギン：外Ａ巣にヒナ２羽生まれていた。ペアは知多22左赤、右白２。
サル山：午前10時頃、野生ザル出現。夕方サル山内に侵入、室内に緊急保護。
12／18　サル山：昨日保護した野生ザル、奥山へ放獣(秋田市林務課)。
12／19　♣　イヌワシ：「空」、盛岡市動物公園へＢＬで移動。BW4,480ｇ（+330ｇ）
ルリコンゴウインコ：♂、朝、採食していたが動きがよくない。午後に死亡。
12／20　☃　トナカイ：♂、朝から採食なし。下痢便している。



11/12　旅立つルル▶

飼育動物数

	種　類	点　数
哺乳類	57	300
鳥　類	54	195
は虫類	10	37
魚　類	3	8
合　計	124	540

（平成15年12月末現在）

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
新春号は、申年にちなんで大森山のサルたちを特集してみました。全部で11(12？)種類のサルたちはいずれも個性豊かです。全て紹介したいのですがとても誌面が足りません。「百聞は一見に如かず」ぜひ、ご来園の上、ご覧になることをお勧めします。
今年も色々な話題をお届けしますので、よろしくお願いします。

－ 千　葉 －

かたばた通信

落葉舞い散る中、イヌワシを観察（撮影　柴田典弘）

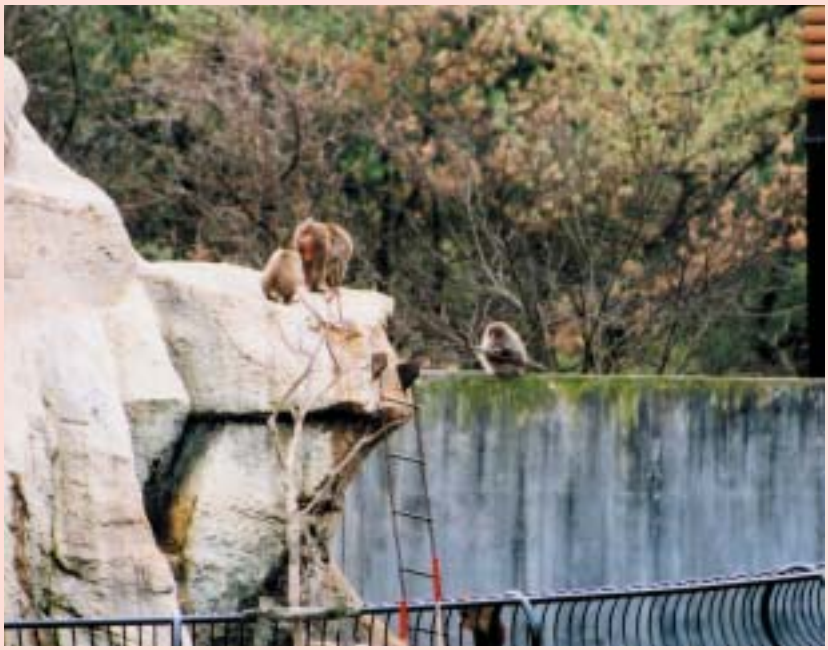
ラプタージャパン（日本猛禽類研究機構）来園

昨年10月30日、絶滅の危機にある希少猛禽類の保全に資することを目的とする団体のラプタージャパンの一行が来園し、昨春繁殖したニホンイヌワシなどを熱心に視察しました。一行と共に訪れた猛禽類研究者の米国オレゴン州立大学パトリシア・ケネデイ博士と、英国ケンブリッジ大学オリバー・クルーガー博士も、イヌワシやクマタカなど日本産猛禽類を中心に興味深く観察されました。また、展示動物はもとより、木々の紅葉や、雪吊りが施された植栽など、園内の晩秋の風情も満喫された様子でした。

こんにちは

野生ザル出現

昨年12月17日、当園のサル山に野生とみられるオスのニホンザルがやってきました。その数日前から市内に出没していた個体のようで、当園の個体とは体色などが明らかに異なっています。このサルは夕刻になって自らサル山に入り、志願して保護された形となりました。しかし、秋田県自然保護課と秋田市林務課を交えた協議の結果、別段ケガなどの様子もないため、野生動物保護の観点から、（彼の意に反し？）できるだけ早く自然に帰す事になりました。翌日、遠い山奥に運ばれて放された野生ザル君、もう人間界に降りて来ちゃダメだよ！



当園のオスザルと向き合う野生ザル（撮影　藤原直樹）

●編集・発行／秋田市大森山動物園　〒010-1654 秋田市浜田字潟端154 TEL018-828-5508 FAX018-828-5509
■URL http://www.city.akita.akita.jp/city/in/zo/default.htm ■E-mail ro-inzo@city.akita.akita.jp